

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2775 号

Endoscopic diagnosis strategy of raspberry-shaped gastric lesion in *Helicobacter pylori*-uninfected patient

Helicobacter pylori 未感染胃粘膜を背景としたラズベリー様外観を呈する胃病変の内視鏡的鑑別方法について

鈴木 信之 (すずき のぶゆき)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、*Helicobacter pylori* (*H. pylori*)未感染胃粘膜に発生したラズベリー様の外観を呈する胃病変を RSGL (Raspberry-shaped gastric lesion)と定義し、その病理組織学的分類を行い、内視鏡的・臨床病理学的特徴を解析し、その所見から内視鏡的鑑別アルゴリズムを作成したものである。

【新規性、創造性】 過去にラズベリー様の外観を呈する胃病変について、腫瘍・非腫瘍を含めて内視鏡的・臨床病理学的特徴を解析した報告はなく、さらにその内視鏡的特徴から日常診療で有用である診断アルゴリズムを作成した点について新規性・創造性がある。

【方法・研究倫理】 単施設の後向き観察研究である。内視鏡データベースから抽出された RSGL54 症例 65 病変を病理組織学的に 5 種類に分類し、それぞれの内視鏡的・臨床病理学的特徴を解析し、その特徴から内視鏡的鑑別アルゴリズムを作成した。本研究はヘルシンキ宣言に従い、当院の倫理委員会の承認を得て行われている。

【学術的意義】 今回作成された RSGL の内視鏡的診断アルゴリズムを使用することで、内視鏡的に鑑別が困難であった RSGL の正診がある程度可能になった点と、更に適切な対応・治療に繋げることが可能である点について学術的意義がある。

【考察・今後の発展】 本論文は RSGL や *H. pylori* 未感染胃癌の診療指針を作成する上で重要な臨床情報であるものの、単施設の後向き研究である。この診断アルゴリズムを用いた単施設・多施設の前向き研究を行い、その有用性を評価することで今後の発展への繋がると考えられた。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。